

かわら版

兵庫県養成医

第5号

2023年3月14日

発行: 卒後ユニット

【自己紹介】

はじめまして。兵庫県養成医師の杉本和真と申します。2018年度に神戸大学を卒業して医師5年目となり、現在は兵庫県の但馬地域にある公立香住病院で総合診療科として勤務しております。研修病院は県立柏原病院(現 丹波医療センター)で2年間を過ごし、その後は豊岡病院総合診療科で2年間勤務し現在に至ります。

【香美町ってどんなところ?】

香美町は兵庫県の北部に位置しており、【香り高く美しい町】として2005年に香住町、村岡町、美方町の3町が合併した町になります。人口は16064人で、高齢化率は40%と超高齢化社会です。香美町の地域性の特徴と言えども田舎な



らではと思えますが、若者の人口流出が顕著であり高齢者の世帯が多いです。民宿を営んでいる家も多く蟹のシーズンは忙しくて家族の介護が難しいときもあります。また漁師の方も多く漁に出ると生活が不規則になり病院への受診が疎かになる人もいます。



大乗寺「芭蕉の間」

香美町は、夏はマリンスポーツ、冬はウィンタースポーツを楽しめる地域です。何かの際に来られた際にはぜひ行って頂きたい観光スポットとしては「大乗寺」と「餘部駅」があります。

大乗寺は天平17(745)年に行基菩薩が開山した高野山真言宗の寺院で江戸時代の画家・円山応挙による165面の襖絵全てが重要文化財に指定され、「応挙寺」の名でも親しまれています。様々な部屋があり「芭蕉の間」では郭子儀の

温かなまなざしが直角方向の襖に描かれた子供達に注がれているように見え、目の前の空間を郭子儀の視線が走っていることになりました。このように本来平面である絵が立体空間につながることを意識して描く手法や見る方向にあわせて子供も右に左に身をかわすふうに見える手法を「八方にらみ」といいます。伝わりにくくと思えますが、実際に見てみるとより実感しやすく面白いです。案内ガイド付きで拝観料は1200円です。



餘部駅は、地上41.5mの高さに位置しており、豊岡と浜坂を結ぶ餘部橋梁で山陰本線でも有数の絶景ポイントです。2010年に鉄橋からコンクリート橋への架け替え工事で新しく生まれ変わりました。橋の上から見る景色は気持ちがとても良いです。

【香美町の医療情勢ってどんなもの?】

香美町香住区の医療機関として香住病院に加え佐津診療所と山本クリニックがあります。香住病院は入院機能を持つ病院として地域医療を担っています。患者の退院先で在宅が困難な方に関しては施設退院を検討します。香住病院の3階にある介護老人保健施設「ゆうすげ」、近隣にある特別養護老人ホーム「しいの木荘」、グループホーム「赤とんぼ」「家族の家」「かがやき」など幾つか選択肢があります。どこも満員であることが多いです。また、酸素投与など医療介入が必要で自宅退院が困難な患者に關しては三田市や丹波市などにある療養型医療施設へ転院をすることが多々あります。最近の取り組みというほどではありませんが、施設での看取りも積極的に行っております。施設との密なやり取りを行い、状態が悪くなった場合病院には搬送せず往診してお看取りを行っています。

【公立香住病院の特徴】

香住病院の標榜する診療科は胃腸科、総合診療科、整形外科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科、婦人科(月2回)、精神科(月2回)、眼科(院内開業)で、太文字は常勤医が在籍しています。2021年10月からは豊岡病院消化器科部長である上田先生を新しい院長として迎え、内視鏡設備なども一新しています。現在、常勤医師は県養成医師3名を含めて合計7名で勤務しています。県養成医師の基本的な業務は外来・入院・救急・訪問診療、透析管理療が主です。外来や入院診療はこの病院でも特に変わらないと思います。当院の救急外来は21時まで稼働し患者を受け入れています。時間外の検査を行いたい場合、放射線技師・検査技師はその都度呼び出しとなります。21時以降の地域の急変患者は基本的に他院への受診、搬送となります。中に当院の診療の経過の中で状態が悪い人に限ってはリストアップを行い【24時間受け入れ患者】として時間問わず当院での受け入



香住病院 正面玄関



香住病院 新透析病棟(イメージ図)



れを行っています。そうすることなるべく患者家族への負担を軽減するように努めています。また当院は派遣病院の中でも小病院で、透析病床を持っており、当院の特徴の一つとも言えます。2023年8月には新しい透析病棟が稼働し、ここでは病床が20床とあります。僕自身もこれまで外来通院の透析管理を行ったことはありませんでしたが、上級医や透析室スタッフと相談しながら診療をしています。但馬でも数少ない透析病院でもあり貴重な経験です。

当院の職員はほとんどが香美町出身であり各職種の連携がとても良く働きやすい職場です。退院調整の際にはメディカルスタッフと相談しつつ患者家族のサポートを行っています。前述べた通り、旅館経営や高齢夫婦や独居(中には高齢でも香住病院への受診歴のない強者)の方が多く、デイサービスやヘルパー、訪問看護を導入してなるべく自宅退院出来るように尽力しています。医学的な面がクリアしたとしても、社会的な面で退院先が決まらな

いことがないように日頃から密に情報共有(治療経過やリハビリ状況など)しつつ円滑に事を運べるように気を付けています。週1回は包括カンファレンス(上図)を行っており、そこで情報交換を行っています。30分程度ですがしっかりと時間を設けて、入院患者に関して相談します。普段、働いていると忙しくてみんなで話し合えないので貴重な時間です。患者家族の色々な情報が聞けるので個人的には楽しい時間です。

【県養成医師ヘイタビユー】

当院には僕を含めて県養成医師が3名在籍しています。藤本優菜先生(医師4年目、神戸大学卒)、辻村英二先生(医師9年目、兵庫医科大学卒)にも【香住病院について】お話を伺いしてみました。

辻村

これまで派遣された小病院の中で学校医の仕事は香住病院でしか経験出来ませんでした。業務としては主に学校での健診を行ったり、学校でコロナ感染が蔓延した時の対応を一緒に考えたりします。

藤本

院内に売店やコンビニが無いのでその点不便に感じることはありませんが、間食しないので健康的です。ご飯も病院から提供してくれるので希望すれば朝昼夕と食べられ栄養面でも助かります。一食400円程度と格安です。

杉本

コロナも少しずつ落ち着いていますが、中々住民との交流は行えていないのが実情です。香住病院から住民への情報発信としては【しおかぜだより】を毎月発行しています。また総合診療科の外来の待合室で待っている時間を有効活用するためにテレビを置いて病気に相关的内容を発信しています。

令和4年10月号 しおかぜだより

医師に聞いてみよう! (総合診療科 鈴木医師)

コロナに関する活動について
どのような取り組みがありますか?

コロナが外出がなくなったと認識している方は多いのではないのでしょうか。感染予防による外出自粛は、重症化や死亡リスクを低減させる効果があります。しかし、外出自粛による生活リズムの乱れやストレスの増加など、新たな健康課題を生み出す可能性があります。そこで、当院では、在宅でできる運動や、スクワットやストレッチなどお家でできる運動を推奨しています。お子様と一緒に運動をすることで、家族の健康意識も高まると考えています。

スポーツの秋!というところで、秋の運動会や行事など、家族で楽しむ機会が増えると思います。しかし、コロナに感染しないよう、運動会や行事には、マスクの着用や、手洗いの徹底をお願いします。

秋は、コロナによる感染症の発生も多くなると考えられています。感染予防のため、お家に滞在し、外出を控えることが大切です。

令和5年2月号 しおかぜだより

医師に聞いてみよう! (総合診療科 鈴木医師)

アルコール依存症とは
どんな病気ですか?

お話を伺った医師の先生から、アルコール依存症の病状や、治療法について伺いました。アルコール依存症は、身体的な依存だけでなく、精神的な依存も生じます。また、アルコール依存症は、家族や周囲の人々にも大きな影響を与えます。アルコール依存症の治療には、薬物療法だけでなく、心理療法や認知行動療法など、多面的なアプローチが必要です。また、アルコール依存症の治療には、患者さん自身の意志も大切です。まずは「病」と認識することが大切です。



総合診療科外来棟

県養成医師の1日の流れ

8時 出勤

病棟回診

8時30分

外来もしくは

透析回診・救急当番

13時30分～

包括カンファレンス(週1回)

14時～

発熱外来対応

Walk in 患者・救急車対応

訪問診療(月1回)

特別養護老人ホーム回診(月1回)

学校健診(年1回各学年)

17時～

病棟回診

帰宅



透析回診

月・水・金(午前・午後)
火・木・土(午前)



月1回の訪問診療

103歳の患者様の家に
診察に来ています。



学校健診

年1回の各学年の
健康診断



病院前にある一戸建ての医師住宅

2階建てでありかなり広々
冬季は寒いですが、賃料は格安

【あとがき】

豊岡病院で働いていた頃は困ったことがあればすぐ相談や検査が出来ました。また入院患者でリハビリや社会調整が必要な人は転院先での調整が多く、最後まで診ることがありませんでした。しかし香住病院に来てからその点に苦労することが多かったです。診断がつかない症例、紹介すべきかどうか悩む症例など数多くあり悩んだ時はみんなで相談したり、以前勤務していた先生に相談したりしています。また1年間働いて退院時の社会調整が上手くなったかと言われるとそんなことはなく、ほとんど病棟師長や社会福祉士、ケアマネージャーを頼ることが多かったです。また数多くの看取りも経験しました。心不全、腎不全、COPDの末期や末期癌患者など。なるべく患者家族の気持ちに沿うように診療したいと思っていますが上手く出来ているか自信がありません。これからも少しずつ精進したいと思っています。最後まで読んで頂きましてありがとうございます。



困ったときは
みんなでカンファレンス